

学遊

かわら版

其乃式

平成拾貳年弥生号

発行

ひたちなか市
教育委員会
生涯学習課☎029-262-4121
内線/335-336今も昔も **インターナショナル** なところ ひすとリー (秘・ストーリー) 編ど
れだけ知っていますか?
ひたちなか市のことを。

時空(とき)を超えたメッセージ

虎塚古墳壁画(イコール)“ピラミッド・テキスト”?

■昭和47年に奈良県明日香村で発見された高松塚古墳内極彩色壁画とともに現代の考古学ブームの火付け役になっ



朱色が鮮やかな虎塚古墳内壁画

たとされるのは市内中根の虎塚古墳。虎塚古墳は、7世紀初頭に造られたとされる全長56.5mの前方後円墳。その後円部の石室には、凝灰岩に白色粘土で下塗りされたキャンパスの上に赤い顔料のベンガラ(酸化第二鉄)で壁画が描かれていたのです。壁画は、コンパス状の器具を使って描かれた◎(環状文)や△▽△(連続三角文)、槍や矛といった武器や鞆(ゆぎ)や鞆(とも)などの武具なども描かれており、呪術的な鎮魂儀礼の特色が強いと考えられています。

■このような支配者の墓として有名なのは、エジプトのピラミッド。その中の幾つかには「ピラミッド・テキスト」と呼ばれる王の再生と復活に必要な呪文等が内部に象形文字で描かれているものがあります。ここで虎塚に描かれた文様を絵文字として捉えたと、もしかしたらピラミッド・テキストと同じ意味がこめられていたということになるのかもしれませんが。

■いずれにしても、我々人間が未来を解くための“カギ”は、過去にあるのにもかかわらず、我々はその過去からのメッセージを解読するどころか、時にはそれ自体を破壊してしまっているのです。先ず過去(人類が辿ってきた歴史)を知り、

それを後世まで伝えていくことが、私たちに与えられた最大の義務なのではないでしょうか?

平成12年春季公開

4月1日(土)~4日(火)

4月7日(金)~10日(月)

まぼろしに終わった築港計画

オランダ人ムルデルにより調査・計画された「那珂湊港」

■時は明治時代初期、帽子をかぶり、髭を生やした一人のオランダ人が、もともと東廻り航路の経由地で、全国的にも知られた要港であった那珂湊に降り立ちました。彼の名は、“ローエン・ホルスト・ムルデル”。時の内務省の土木技師で、横浜港・東京港をはじめ数多くの港や運河の計画をした当時の土木・治水技術のプロ。彼は、それまでに広島宇品港、熊本の三角港、横浜港そして利根運河の計画等で培ったノウハウを活かし、那珂川口を直流させて新河口を造り、そこに河口港を築港しようとする画期的な築港計画をたてたから驚きです。

■当時の那珂川は、沿岸流等の影響で川口において左折して太平洋に注ぎ、大洗側から北に向かって沖の州が伸びていたのですが、そんな大胆な計画だったからこそ、築港経費の試算額が四十万円以上になってしまい、近代港「那珂湊港」築港という住民の夢は、まぼろしに終わってしまったのです。

■しかし、彼の「那珂川を直流させる案」は揉み消されるどころか、最終的にはその案のとおり工事が行われ、現在のように那珂川は真っ直ぐ太平洋に注ぐようになったのです。

■現在の那珂湊港及び那珂川河口。この原点にあったのがムルデルの築港計画。明治の初め、この地にオランダ人が赴き、そんな計画をしていたことを誰が思ったでしょうか。歴史とは未知なものであり、英語では“HISTORY”ですがそれは言い換えれば、正に「秘・ストーリー」なのではないでしょうか。



(写真提供 流山市立博物館)